

「プロ」としての誇りと自覚

守衛室には「株式会社城保安警備」から配置されている警備員が24時間・年中無休で常駐しており、施設の保安管理や救急車の案内対応、時間外来患者の対応など多岐にわたる業務を行っています。

病院は病を罹った人や思いがけず怪我を負ってしまった人の他、妊婦さんや小さなお子さん、患者さんの家族、お見舞いの方など様々な方が来院される場所です。様々な状況の方が来院されることを念頭に、多忙な状況であっても常に相手の立場に立ち、思いやりの精神を持って業務に当たることを心がけています。

患者さんと接する時間はあまり多くないですが、僅かな介助や些細な行為に対してもお礼を言って頂く



とがあり、こちら側が恐縮することもあります。

年末年始は、人や車の往来も激しくなる慌ただしい時期です。忙しければ忙しい程、心の余裕をなくしかねません。自身に余裕がなければ「人への思いやりの精神」は生まれませんが、「警備のプロ」とあるという誇りと自覚のもと、長崎みなとメディカルセンターの一員として様々な対応に勤しんで参ります。

[株式会社城保安警備 警備隊長]

11  
2023/12



TOPICS

寒い時期こそ、  
感染症にご用心!

INFORMATION

お知らせ掲示板

各病棟の紹介動画、随時更新中!

各病棟でどのような仕事をしているか、皆さんにわかりやすくお伝えしたい!と、病棟職員で協力し、紹介動画を作成いたしました。それぞれの病棟の特徴も合わせてお楽しみください!

紹介動画はこちらのサイトにまとめてありますので是非ご覧ください!



院内では引き続きコロナ感染対策のご協力をお願いいたします

新型コロナウイルス感染症は感染症法上の5類に移行し、個人の判断でマスク着用などを行うこととなりましたが、医療機関では引き続きマスク着用が推奨されています。当院では、来院される全ての方に、入館時の体温計測・手指消毒・不織布マスクの着用を引き続きお願いしております。ご理解とご協力をお願いいたします。

受診のご案内

[診療時間] 8:45~17:00

[受付時間] 予約のある方 予約時間にあわせてお越しください。  
 予約のない方 月曜~金曜 8:30~11:00

[休診日] 土曜/日曜/祝日/年末年始  
 ※救急は随時受け入れています。

面会のご案内

[面会時間] 14:00~17:00 (1日1回30分まで)

[人数] 2名様まで

※1階受付の入院患者さんへの荷物のお預かりは、終了しました。面会時間内に直接患者さんにお渡しください。

- ・初診で紹介状をお持ちでない方は、選定療養費として別途7,700円(税込)をいただきます。
- ・再診予約時間の変更は、平日の14時~16時にお電話ください。(お電話口で診療料をお伝えください。)
- ・正面玄関は8時から開錠します。
- ・外来診療担当医表はHPに掲載しています。右のQRコードからご覧ください。



外来診療担当医表

電話でのお問い合わせ 095-822-3251 (代表)



発行・編集  
 長崎みなとメディカルセンター 総務課 広報担当

## ノロウイルスにご用心!

ノロウイルス感染症とは、ノロウイルスに感染することにより嘔吐・下痢・発熱などの症状を引き起こす病気のことです。

牡蠣やアサリなどの二枚貝を加熱不十分な状態で摂取したり、感染者の体液に接触したりすることでノロウイルス感染症に罹患する事が多いとされています。通常、ウイルス曝露後12~48時間で発症し、基本的には1~3日で自然回復しますが、体の弱い乳幼児や高齢者が感染すると脱水状態に陥ることもあり、経口補水液や点滴による治療が必要となる事があります。

ノロウイルスの検査としては専用の検査キットを用います。重症化しやすい3歳未満、65歳以上は健康保険が適用され、15分程度で検査をすることが可能です。

ノロウイルス感染症を予防するには、体内にノロウイルスを侵入させないことが大切です。

MEDICAL  
HOTLINE

## 診療ホットライン

こんな事にはご用心!

身近に感染者がいる場合は流水と石鹸でこまめに手を洗い、マスク着用などの基本的な感染対策を行いましょう。

また、次亜塩素酸による身の回りの用品の消毒も有効です。業務用の次亜塩素酸ナトリウムや家庭用の塩素系漂白剤を使って、塩素濃度200ppmの塩素液を作り、感染者の利用した食器を浸すほか、多くの人が触れるドアノブや感染者の嘔吐を処理した後の床や壁などを拭き取り消毒することが効果的です。

### 次亜塩素酸ナトリウム消毒液の作り方(薄め方)

原液濃度	薄める倍率(原液と水の割合)
1%の場合	50倍(原液30ml+水1.5L)
5%の場合	250倍(原液6ml+水1.5L)



[消化器内科 診療部長 矢島 弘之]

## 教えて!先生 すこやか 広場 [食中毒]



### Q 冬にも食中毒は起こりますか?

A 年間を通じて発生します。特にノロウイルスによる食中毒は冬場にかけて多発しています。ノロウイルスは手指や食品などから経口感染し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。健康な方は軽症で回復しますが、子どもや年配の方は重症化することがあります。

### 冬に食中毒!?

新型コロナウイルス感染予防対策もあり食中毒の発生件数は減少傾向でしたが、令和4年以降増加しており要注意です。

### Q ノロウイルスによる食中毒を防ぐ為にはどうしたらいいですか?

A 予防4原則の徹底が重要です。

#### 原則① 持ち込まない

ノロウイルスに感染している人が調理した食品を口にすることで感染します。普段から健康状態に注意し、下痢や腹痛など症状がある場合、食品を直接取り扱う作業は控えましょう。

#### 原則② につけない

調理や盛り付けなどの前に手洗いをすることで、食品や調理器具などに菌をつけないようにします。手洗いは石鹸を使って丁寧にいきましょう。

#### 原則③ 加熱する

ノロウイルスを死滅させるためには中心温度85°C~90°Cで90秒以上の十分な加熱が必要です。

#### 原則④ 拡げない

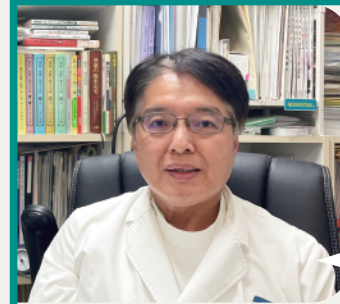
ノロウイルス感染がおこった場合には、食器や調理器具、床などの生活環境を次亜塩素酸ナトリウムで消毒しましょう。

手洗いの方法は  
こちらをチェック!  
(厚生労働省)



[栄養管理部 管理栄養士 近藤 直幸]

## あなたのまちのお医者さん



医療法人 江口クリニック  
江口 毅 先生

### ■プロフィール

1988年川崎医科大学卒業。1990年に内分泌内科(現糖尿病・内分泌内科)へ入局。富山医科薬科大学(現富山大学医学部)和漢診療学講座での漢方の研修や複数のクリニックでの勤務を経て、2008年に医療法人江口クリニックでの勤務を開始、2009年に同クリニックの理事長に就任。

### ■医院の特徴

漢方(東洋医学)を中心とした診療を行っています。受診希望の方は必ず、かかりつけ医にご相談いただくか、事前にお電話での予約をお願いいたします。対象はお子様から高齢の方まで、アトピー、花粉症、月経不順、高血圧等さまざまな疾患に対する

漢方による治療を専門としたクリニックです。身体や体調に関するお悩みがありましたら、ご相談ください。  
※完全予約制になりますのでお電話ください

漢方治療を行っています。漢方治療に特化した電子カルテシステムを構築し、使用しています。完全予約制にすることで、患者さま一人一人の病状や体調などを聴く時間をいただき、治療方針について一緒に考えられるようにしています。

### ■基本情報

診療分野: 漢方(東洋医学)  
生活習慣病

[診療時間]	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	○	○	○	-	○	○
14:00-18:00	○	○	○	-	○	※

※土曜日は17時までの診療になります  
休診日: 日曜、祝日、木曜日  
〒850-0025 長崎市今博多町45番地  
TEL.095-823-3348



### 院内探検隊!

患者さんに寄り添って  
安全な透析看護を目指して

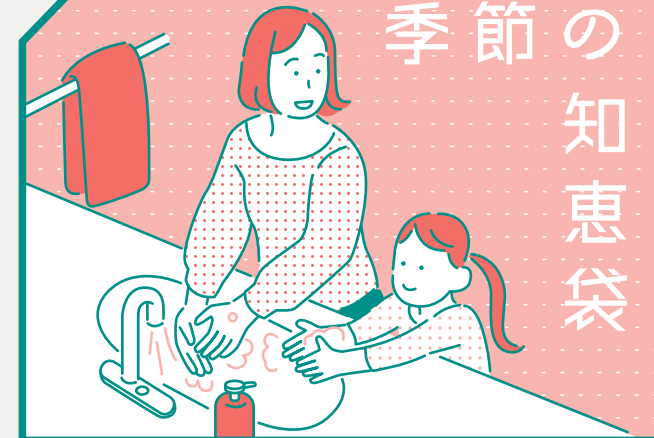


Youtubeで  
動画配信中!

私たちは血液浄化療法室(透析室)の看護師です! 血液透析とは、体外で人工腎臓(ダイアライザー)を使って血液中に溜まった老廃物を取り除き、水や電解質のバランスを整え、きれいになった血液を再び体に戻すことをいいます。体外で血液を循環させるという高度な治療を行いますので、緊張感もありますが、常に患者さんに寄り添い、安心して治療を受けられるよう努めています。患者さんが安全に治療を受けて、社会で自分らしく元気に過ごしていただくことが私たちのやりがいに繋がっています。

[血液浄化療法室 看護師長 浦山 いづみ]

## 季節の知恵袋



## インフルエンザを 予防しよう

インフルエンザはインフルエンザウイルスによって起こる感染症で、例年は冬季である11月から3月にかけて流行します。しかし、2020年の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行以降、2シーズンは全国的なインフルエンザの流行はみられず、昨年12月頃より3シーズンぶりにインフルエンザが流行し、10月下旬には注意報レベルにまで増加してきています。

インフルエンザウイルスの主な感染経路はCOVID-19と同様に飛沫感染と接触感染なので、予防するためには日頃からしっかりと手洗いが行い、マスクの着用や咳エチケットにも心がけていくことが大切です。また、空気が乾燥すると喉の粘膜の防御機能が低下しますので、乾燥しやすい冬季の室内では加湿器などを使用して50~60%の湿度に保つことも大事です。なお、COVID-19の流行以降の2シーズン、インフルエンザの流行がみられていなかったことから、インフルエンザへの免疫を獲得する機会が少なく免疫力が低下しています。したがって、これまでよりもインフルエンザワクチンの予防接種は重要となりますので、ワクチンを接種することを積極的に検討しましょう。

普段の生活から、感染予防を意識していきましょう。



[呼吸器内科 診療部長 兼  
感染制御センター長 澤井 豊光]